

増穂だより

M A S U O D A Y O R I

中学卒業式典号



芝浦工業大学柏中学高等学校

<http://www.ka.shibaura-it.ac.jp>

〒277-0033 千葉県柏市増尾 700 番地

TEL 04-7174-3100(代) FAX 04-7176-1741

編集 総務部

発行日 令和6年3月21日

印刷所 株横浜綜合写真

自らの可能性を拓く

— 23 期生卒業 —

2023 年度芝浦工業大学柏中学校卒業式式辞

校長 中根 正義

「続ける勇氣」を持ち続けることの先に

増尾城址公園を渡る風に、春の息吹が感じられる季節になりました。芝浦工業大学柏中学第23期200名の生徒の皆さん、卒業おめでとう。保護者の皆様、心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんの学校生活は、新型コロナウイルスの感染拡大と収束に向けた動きの中でありました。皆さんの入学式や各種行事は中止か、縮小という苦渋の決断をせざるを得ないこともありました。そうした中で、学年団の教員たちは、学習面はもとより多様な経験を積んでもらいたいと、試行錯誤をしながら行事などの実施に奔走してきました。

2年の時には富士山方面への宿泊研修を行いましたね。私は新聞記者時代に富士山麓で取材活動をしており、事前学習で富士山の環境や歴史、文化などを皆さんにお話ししたことを覚えているでしょうか。

ほかの思い出深い行事としては、昨年秋の運動会と合唱祭が挙げられます。運動会では下級生をサポートしながら、男子が団体行動、女子がダンスを堂々と披露してくれました。また、合唱祭では圧巻の歌声をホールに響かせ、保護者の皆さんがわが子の成長した姿をうなずきながらご覧になっていたのは特に印象に残っています。

皆さんは高校進学とともに、これからの進路について検討する機会が増えます。この春休みを利用して、人生における夢や今後の目標について考えてみてください。どんな高校生活を送るのか、具体的に書き記してみてくださいと思います。

これからの人生では、さまざまな経験をする中で失敗することもたくさんあることでしょう。しかし、失敗することを恐れてはいけません。大切なのは、そこから何を学ぶのか、今後の糧にできるのか、なのです。

夏の高校野球で一昨年の夏に優勝、去年は準優勝した仙台育英高校の須江航監督は「人生は敗者復活戦」という言葉を好んで使っています。甲子園で頂点に立つのは、全国約3500校のチームの1校でしかありません。優勝校以外は負けるということです。だからこそ、負けたこと

にしっかりと向き合い、そこから何を学び、どう生かしていくかが大切だということでしょう。

皆さんはイギリスの名宰相、ウィンストン・チャーチルを知っていますか。今年はチャーチル生誕150年ということで、その肖像が描かれたコインが発売されたり、評伝が出版されたりしています。彼は首相として第二次世界大戦でイギリスを勝利に導き、その回顧録によりノーベル文学賞を受賞し、時間があると絵も描いたという多才な人物です。

ただ、彼は若い頃から前途洋々たる人物だったわけではなく、大学受験には2度失敗し、政治家としても落選を経験。ジャーナリストとして従軍記者をしていた時には捕虜になったり、第一次世界大戦中に務めていた海軍大臣時代にはトルコ軍に大敗し、更迭されたりという経験をしながら、65歳で首相に就任しました。

チャーチルの在任中、ヨーロッパ諸国はナチス・ドイツに降伏し、英国も首都ロンドンが空襲を受けるなど非常に厳しい局面に追い込まれました。しかし、たくさんの挫折を経験してきたチャーチルは国民を鼓舞し続け、イギリスを勝利に導きました。彼は自分の人生を振り返りながら、こう話しました。

「成功は決定打ではなく、失敗は致命的でもない。続ける勇氣こそ重要である」

「金を失うのは小さく、名誉を失うのは大きい。しかし、勇氣を失うことは全てを失う」

「悲観主義者はすべての好機の中に困難のみを見つけるが、楽観主義者はすべての困難の中に好機を見いだす」

繰り返しになります。将来の夢や目標に向かっていく途中には、大きな失敗や挫折を経験することもあるでしょう。重要なことは、そこから学び、柔軟性や粘り強さを持って前に進んでいくことではないでしょうか。

私たち教職員は、これからも皆さんを全力でサポートしていきます。輝かしい未来に向かって、失敗や挫折を恐れず、力強く進んでいってください。

卒業生の皆さんの益々の活躍とご臨席の皆様のご健勝を祈念し、式辞といたします。

目次

校長式辞 / 式次第	1 P
表彰 / 校歌	2 P

一、開式の辞
一、卒業証書授与
一、賞状賞品授与
一、校長式辞
一、学校法人代表祝辞
一、在校生代表の言葉
一、卒業生代表の言葉
一、卒業生保護者代表の言葉
一、校歌斉唱
一、閉式の辞



創立者有元史郎記念賞・優等賞

D組

このような素晴らしい賞を頂き、非常に嬉しく思います。私は、この3年間を通して人と協力することの難しさを実感しました。大きな行事の際には、意見が対立することもありましたが、最終的には一致団結して楽しい行事にすることができました。このような経験を通して、「様々な意見に耳を傾ける」ことの大切さがわかりました。今までの私の考えとは違った考え方を受け入れることで客観的に物事を見ることができたからです。

このような学びができたのは、高め合ってくれた友人、支えてくださった先生方や家族がいたからです。本当にありがとうございました。この3年間で学んだことを今後の学校生活や部活動に活かして頑張ります。

千葉県私立中学高等学校協会賞・優等賞

D組

この度、このような賞を頂けたことを大変嬉しく思います。

私は小学六年生の時に「自分がなりたい自分」になろうと決めて、これまで中学校生活を送ってきました。そして、中学三年間を通して色々な人と出会い刺激を受け、少しずつ近づいていくことができたのかなと思います。ですが、最近はかなり学校生活に慣れて気が緩んでいるという自覚がありました。そのため、今回の受賞は、再び気を引き締めて残りの学校生活を送ろう、と思うきっかけとなりました。私は文章を書くのが得意ではないので、つたない文章になってしまいますみません。これからも、「なりたい自分」に少しでも近づけるよう、努力することを忘れないようにしたいと思います。ありがとうございました。

毎日が喜び

芝浦工業大学柏中学高等学校校歌

川 小
辺 椋

真 佳

編 作
曲 曲 詞

一、 緑と実り 自然の恵み

抱かれて建つ 白い学び舎

出逢う友は皆 輝く太陽のあなた

無限の宇宙へ 挑む翼を磨く

伝統を築くものたち

新しい道を 拓くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

二、 伸びやかな風 行く大津川

深い想いの 城址公園

集う友は皆 あふれる友情をかかえ

それぞれの夢に 熱い誓いを結ぶ

責任を果たすものたち

自由な心を抱くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

柏の青春 毎日が生きる喜び